

「吉田用水記念碑」 刻字がくっきり

清田区清田1条1丁目の厚別（あしりべつ）川左岸道路脇（北海道コカ・コーラボトリング裏）に建っている「吉田用水記念碑」の刻字がくっきりと見えるようになりました。これは、NPO法人あしりべつ川の会とあしりべつ郷土館が9月21日、専門業者に頼んで行ったものです。



きれいになった吉田用水記念碑

吉田用水は明治25年（1892年）頃、吉田善太郎はじめ先人たちが手掘りで造成した清田地域最初の農業用水路です。記念碑がある付近の厚別川から取水し、北野、大谷地方面に農業用水を供給しました。用水路の長さは約5kmに達し、これにより水田が広がりました。吉田用水は昭和40年代に役目を終え、大半は埋め立てられましたが、その痕跡が北野3条3丁目に長さ500mの帯状の原っぱとして残っています。

記念碑は大正8年（1919年）に建立されました。古くなり、表面の文字が読みづらくなっていました。散歩のついでに、きれいになった記念碑を見ていただければと思います。



吉田用水跡＝北野3条3丁目

ご存知ですか？「里塚小唄」

「里塚小唄」は、昭和25年（1950年）の豊平町三里塚青年団主催の文化祭で一等当選した歌です。作詞は当時、青年団員だった北村順作さん、作曲は三里塚小学校の8代校長高橋親先生です。永らくこの時の楽譜が不明でしたが、平成16年（2004年）、当時、美しが丘式番街町内会長だった小山内國行さんが発見、補作し、50年ぶりに蘇りました。「里塚小唄保存会」が設立され、宮島みき子さんの振り付け指導などで、歌って踊る小唄として陽の目を見ることになりました。その後、歌碑が三里塚神社境内に建てられました。

札幌には数多くのご当地ソングがありますが、「里塚小唄」のように地元の青年や先生が作った歌はほとんどなく、そして歌詞（1～4番）から戦後すぐの里塚の様子がよくわかります。「遠く恵庭の山肌眺め 緑の畑に 羊や牛が」や「見下ろす田の面に稲穂が重い」、「曲がりくねって上って下りて」などから戦後すぐの里塚の風景や旧国道36号の様子が分かります。里塚（今の里塚、美しが丘、里塚緑ヶ丘、平岡公園東）地域は今ではすっかり住宅街となり、昔をイメージできなくなってしまいました。

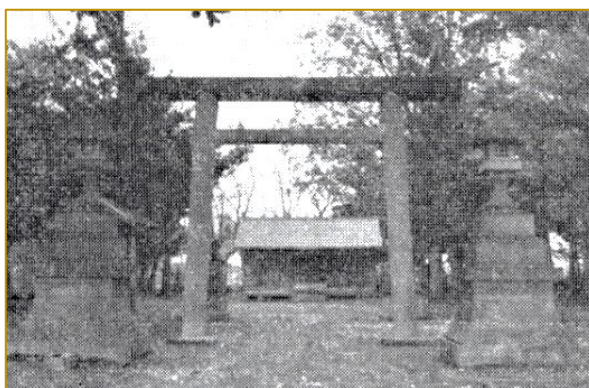
「里塚小唄」のことがよくわかる短編動画があります。園部真人さん（札幌市視聴覚センター）によって制作された「里塚小唄物語～受け継がれる伝統～」（2016年3月）です。この動画は、あしりべつ郷土館ホームページからご覧になれます。清田区の文化的財産である「里塚小唄」が、各町内会の盆踊りの時に歌われたり、踊られたりすることになることを願っています。（田山修三）



三里塚神社にある「里塚小唄」の歌碑

清田区の歴史あれこれ（7）

鎮座百五十周年 厚別(あしりべつ)神社「旧本殿」のこと



厚別(あしりべつ)神社は、清田区では最も古くから祀られている神社です。明治7年(1874年)、厚別(あしりべつ)の先駆者、長岡重治氏が開墾の片隅に小祠を造り、朝夕の拝礼を契機として、明治18年(1885年)9月、浪岡清一郎氏・鈴木多七氏・長岡重治氏等により、地域の人々も参拝ができる社(やしろ)として合掌作りの祠(ほくら)が建立されました。

場所は、現在の清田緑地内で左の図<国土地理院・大正5年(1916年)地図を基に神社の参道を付記>を参照ください。

祭神は、天照大神(あまてらすおおかみ)・大山祇命(おおやまつみのかみ)・倉稻魂神(うがのみたまのかみ)の三柱を祭り、五穀豊饒と地域住民の安全を祈りました。

その後、開拓の進展に伴い、大正6年(1917年)5月有志の人々の寄付により、現在地に新しい社殿を造営し、本殿を遷座しました。左の写真は、昭和34年頃の厚別神社の拝殿です。位置は今と違って神社階段を上った正面にありました。

大正6年当時の社殿の敷地・大きさ・配置について、「厚別神社沿革史」には、次の様に記されています。

<神社境内用地 一反五畝歩(約1,500㎡)>

- ・ 拝殿 間口4間(約7.2m)・奥行3間(約5.4m) 広さ12坪(約39.6㎡)
 - ・ 幣殿 間口1間(約1.8m)・奥行1.5間(約2.7m) 広さ1.5坪(約4.95㎡)
 - ・ 本殿 間口1間(約1.8m)・奥行2間(約3.6m) 広さ2坪(約6.60㎡)
- (注：1間は、約1.8m。1坪は、約3.3㎡です。)

※社殿の配置は、手前から拝殿(参拝する処)・幣殿(へいでん・供物などを供える処)・本殿(ご神体を安置する処)の順となります。



左の写真は、大正6年に建立の「本殿」です。

昭和45年(1970年)9月に、創建された現厚別神社の北側奥に移設されて今も保存されております。

造りは、「一間社流造(ながれづくり)」という様式で、本殿の下部には、依代(よりしろ：神が寄り付くもの)と思われる石が据えられ、「海老虹梁(えびこうりょう)」の梁など、趣向の凝らされた造りです。当時の屋根は茅葺(かやぶき)であったと思われますが、保存上、鋼板の屋根となっております。今年、令和6年(2024年)6月、厚別神社が鎮座百五十周年を迎える当たり、旧本殿の扉と階段等を改修致しました。

扉には「ギリ戸」の技法が敷設され、開閉する際「ギギギ」と木の軋み音が鳴り響きます。この旧本殿は、清田区の大正期の歴史遺産として、大切にしていきたいものです。(了寛 紀明)

「里塚」の由来となった「三里塚」のお話

「里塚」という地名は「三里塚」の「三」を取って付けられた地名です。昭和19年(1944年)に、三里塚から里塚になりました。「三里塚」という地名は、札幌中心部(創成川に架かる創成橋=南1条東1丁目)から3里(約12km)を示す標識(里程標)が旧道(旧国道36号線)の三里川ほとりに建っていたことから、三里塚と呼ぶようになりました。

北海道開拓使は明治6年(1873年)、札幌から室蘭まで北海道最初の主要街道として札幌本道(「室蘭街道」とも。今の旧道に当たります)を造成しました。この時、1里ごとに室蘭まで里程標(木製の標柱)を建てました。三里塚はその1つでした。

場所は、三里川が旧道の下を流れる里塚2条2丁目付近の川のほとりで、中華料理店「大華飯店」がある辺りです。ここに三里塚があったことは、開拓使が札幌本道を開通させた際、「新道出来形絵図」(北海道大学北方資料室所蔵)という絵図を作成しましたが、この絵図に三里塚の標柱が描かれていたことから明らかです。

ところが、札幌本道の里程標は、明治14年(1881年)の明治天皇の北海道巡行の際に建て替えられました(明治13年)。そして不思議なことに一里塚も二里塚も三里塚も四里塚もすべて700m~900m札幌寄りにズレた位置に建て替えられたのです。なぜ建て替えられたのか、なぜ位置を札幌寄りにずらしたのかは、分かっていません。謎です。

建て替えられた三里塚は、今の平岡2条4丁目付近の旧道にありました。6寸角(18cm)の長さ6尺(1.8m)の角材で、白いペンキ塗りの里程標だったそうです。戦後の昭和20年代まであったといえます。ちなみに明治6年設置の最初の三里塚も、「同じくらいの大きさだったと推定される」(郷土史研究家の了寛紀明さん)とのことでした。

ところで、現在、「三里塚」碑が平岡南公園(平岡2条6丁目)の旧道沿いに建っています。この石碑は2004年、三里塚小学校100周年を記念して同校百年記念事業協賛会が復興して建てたものです。しかし、ここには三里塚の里程標はありませんでした。なんら三里塚とは関係のない場所です。

明治6年の三里塚の里程標は、この石碑から約200m旧道を大曲方面にカーブして下った三里川のほとりにあったのです。また明治天皇巡行で建て替えた里程標は、平岡南公園の石碑から札幌方向に約700m離れたところにありました。

平岡南公園前に建つ「三里塚」碑は、人々の誤解を招かないように、可能ならば本来の三里川のほとりに移したほうがいいのではないのでしょうか。今も「三里塚小学校」や「三里塚神社」、「三里塚公園」などに名をとどめている三里塚。「三里川」も同様です。大事にしたい故郷の地名です。

(川島 亨)



開拓使「新道出来形絵図」(明治6年)に描かれた札幌本道と三里塚付近。「従札幌第三号」(札幌より第三号)と書かれた里程標が三里川のほとりに描かれている



明治6年設置の三里塚里程標があった付近(里塚2条2丁目)



平岡南公園前に建つ三里塚碑



郷土館で昭和歌謡！ 「郷土の歴史と懐かしの歌」を開催



あしりべつ郷土館では令和6年度、偶数月に「郷土の歴史と懐かしの歌」というお楽しみ企画を開催してきました。清田の郷土史のお話のほか、昭和歌謡と昭和という時代、朗読など毎回、テーマを変えた企画を行い、そのあと毎回、懐かしの昭和歌謡や唱歌をみんなで歌うというイベントです。

昭和の懐かしの道具類が展示されているレトロな郷土館内で開催するという点がユニークなところです。毎回、歌声ボランティア「ふれあいサポート」の園部真人さん（郷土館運営企画委員）の軽妙な進行で楽しい会になっています。次回は2月6日（木）10時～11時30分開催で、俳優の石橋玲さんの朗読と懐かしの歌です。参加料は無料です。



STVテレビで郷土館の活動が紹介されました

あしりべつ郷土館の活動が今年3月23日、STVテレビ「札幌ふるさと再発見」で全道に放送されました。これは札幌市の広報番組で、「地域の歩みを次世代につなぐ～あしりべつ郷土館」というタイトルで3分間の動画にまともられたものです。あしりべつ郷土館ホームページからいつでもご覧になれます。



郷土館を紹介したSTVテレビ
「札幌ふるさと再発見」

郷土館パンフレットを改訂

今年、郷土館パンフレット＝写真＝を改訂しました。あしりべつ郷土館を簡潔に紹介しているほか、郷土史研究の了寛紀明文庫やパネル展示の紹介など新しい要素を盛り込みました。

キャッチコピーとして「郷土の歴史と誇りを今に伝え、未来に語り継ぐ」を

表紙にうたいました。

パンフレットは、あしりべつ郷土館のほか清田区役所や清田区民センター、里塚・美しが丘地区センターなどに置いてあります。自由にお取りください。



利用案内

- 開館日 水曜日・土曜日（10時～16時）
- 入館料 無料
- 場所 札幌市清田区清田1条2丁目 5-35 清田区民センター2階
- 運営主体 清田区内の町内会連合会で作る運営委員会（区民による自主運営）

学校関係の団体見学

令和6年度も清田区内の小学校および札幌国際大学の学生による郷土館団体見学が相次いでいます。11月までの状況は以下の通りです。

（※印は、吉田用水跡現地見学会）

- 5月 9日 札幌国際大（11名）
- 5月16日 札幌国際大（13名）（※）
- 6月17日 北野小（60名）（※）
- 6月24日 北野台小（71名）
- 9月 3日 美しが丘緑小（28名）
- 10月 9日 清田小（37名）
- 10月18日 平岡公園小（120名）
- 11月15日 札幌国際大（6名）



郷土館で学ぶ北野台小の
児童たち＝2024年6月24日

● 寄贈資料 ●

以下の資料のご寄贈がありました。ありがとうございます。

- 山崎智好氏 写真（昭和初期 あしりべつの名士）など
- 亘信夫氏 書物「北海道江別市の橋」
- 中川昭一氏 書物「区制施行50周年記念 豊平区の歴史」
- つきさっふ郷土資料館「つきさっふ郷土資料館だより」第45号
- 了寛紀明氏 郷土史研究レポート「清田発掘」

■ 郷土館ホームページ ■

郷土館の動きや清田区の歴史に関する新しい情報を発信しています。

<https://ashiribetsu-museum.com/>

郷土館のホームページ QRコード ⇒



アクセス・マップ



中央バス「清田小学校」から約520m